

国際広報メディア専攻

平成 26 年度
後 期

日本語論述

13 : 30～15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて 2 枚ある。
- 3 解答用紙 (25 字×40 行=1000 字) は、2 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配付されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題1～4のうちから1題を選択し、1600～2000字の日本語
(横書き)で解答しなさい。

【問題1】

「アラブの春」が起こった背景と経緯について述べ、権威主義政権の限界と民主主義のあり方を論じなさい。一カ国事例を選んで、述べても構わない。

【問題2】

アメリカでは公職選挙において、新聞社が社説で特定候補の支持を表明し、ケーブルのニュース放送局の番組が政治的に右派、左派に偏った見解を表明することも少なくない。これに対して、日本ではメディアが特定の候補を支持する報道を行うことはない。こうした現状について、報道機関の「中立性」とメディア・リテラシーに言及しながら、考えを述べなさい。

【問題3】

パソコンが普及し、DTP、すなわちパソコンを用いた出力・出版のための編集作業を執筆者などが自ら行うことができるようになった。かつては出版・印刷関係の専門家にゆだねていた作業の多くを、執筆者などが自ら行うことについて、その可能性と問題点について論じなさい。

(なお、以下の用語を手掛かりとして、論じてもよい。

[レイアウト、イラスト、写真、CG、フォント、文字組み、色彩])

【問題4】

外国語教育には、ESP(English for Specific Purposes)、JSP(Japanese for Specific Purposes)など、「特定の目的のための外国語教育」と呼ばれる分野がある。例をひとつ挙げ、学習項目をどのように決めるか、何を、どのように教えるかについて具体的に論じなさい。実施上の留意点に言及すること。